

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場会社名 本州化学工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 4115 URL <http://www.honshuchemical.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐野 景一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 和智 達也

四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日

TEL 03-3272-1482

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	10,902	△25.6	250	△84.9	618	△62.7	228	△72.7
21年3月期第3四半期	14,650	—	1,664	—	1,658	—	837	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	19.90	—
21年3月期第3四半期	72.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	20,118	11,839	52.9	925.99
21年3月期	20,238	11,772	51.8	913.00

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 10,633百万円 21年3月期 10,485百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	6.00	—	9.00	15.00
22年3月期	—	0.00	—		
22年3月期 (予想)				10.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,220	△14.0	170	△76.3	560	△34.5	120	△70.2	10.45

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 11,500,000株 21年3月期 11,500,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 16,403株 21年3月期 15,386株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 11,483,597株 21年3月期第3四半期 11,485,776株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（2009年4月～12月）における当社グループを取り巻く事業環境は、企業での在庫調整の進展や中国向け輸出の増加等を背景にようやく景気回復の兆しがみられ、一部業界においては緩やかながら需要の回復をみることができたものの、全体としては依然として先行き不透明な厳しい状況が続きました。

このような情勢のもとで、当社グループは、収益及び財務体質の改善と向上を図るため、人件費をはじめとした固定費の削減などコストダウンの徹底を強化するとともに、研究開発体制の再編成による新製品の開発促進と市場投入への加速化、新規投資の重点選別や在庫削減によるキャッシュ・フローの改善など、総力をあげて諸施策を実行してまいりました。

この結果、当社グループの業績は、第3四半期（2009年10月～12月）においては、前年同四半期並となりましたが、当第3四半期連結累計期間（2009年4月～12月）としては、売上高、10,902百万円（前年同期比25.6%減）となり、営業利益は250百万円（前年同期比84.9%減）、経常利益618百万円（前年同期比62.7%減）、四半期純利益は228百万円（前年同期比72.7%減）となりました。

部門別の販売状況は、次のとおりであります。

<高機能樹脂原料>

・ビフェノール

ビフェノール（パソコン、携帯電話等のIT関連機器やデジタル家電の電子部品に用いられる耐熱性、精密成形性に優れた液晶ポリマー（LCP）の原料）は、ユーザーでの生産・在庫調整による大幅な需要の減少により、販売数量が激減するとともに販売価格も低下したため、売上高は前年同期に比べ大幅に減少しました。

・特殊ビスフェノール

（特殊ポリカーボネート樹脂原料用）

主力製品である自動車部品向けの特殊ビスフェノールは、ユーザーでの生産・在庫調整により需要が減退しておりましたが、当年度下期に至り、緩やかながらも需要の回復をみることができたものの、売上高は当第3四半期連結累計期間では減少しました。

（特殊エポキシ樹脂原料用）

主力製品であるビスフェノールFは、ユーザーでの生産・在庫調整により需要が減退しておりましたが、需要の回復により販売数量が増加したため、売上高は前年同期に比べ大幅に増加しました。

この結果、高機能樹脂原料部門の売上高は3,864百万円（前年同四半期比19.9%減）となり、総売上高に占める割合は35.4%（同3.6ポイント増）となりました。

<高機能化学品>

・フォトレジスト材料

フォトレジスト材料（半導体及びLCD（液晶ディスプレイ）の製造過程で使用）は、半導体用については、需要回復が緩やかであり低調な販売となりましたが、LCD用については、順調な需要の回復を見ることができ好調な販売となったため、売上高は前年同期並となりました。

・クレゾール誘導品

トリメチルフェノール（主に家畜用飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料）は、当年度下期に至り、ユーザーでの生産・在庫調整の進展により需要回復の兆しがみられたものの、当第3四半期連結累計期間における売上高は、販売価格の低下及び販売数量の減少により、前年同期に比べ大幅に減少しました。

精製BHT（酸化防止剤として主に潤滑油、ゴム・エラストマー、合成樹脂分野を中心に幅広く使用）は、2009年1月より販売を開始していますが、ユーザーでの生産・在庫調整による需要の減少が続いており、本格的な需要の回復には至っておりません。

この結果、高機能化学品部門の売上高は、5,667百万円（前年同四半期比30.9%減）となり、総売上高に占める割合は52.0%（同4.0ポイント減）となりました。

<その他化成品>

受託生産品及びリセール品の販売数量がいずれも減少したため、その他化成品部門の売上高は、1,371百万円（前年同四半期比16.0%減）となり、総売上高に占める割合は12.6%（同1.4ポイント増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて119百万円減少し、20,118百万円となりました。

流動資産合計は、売掛金の増加（1,905百万円）、商品及び製品の減少（1,243百万円）等により、前連結会計年度末に比べて1,033百万円増加し、9,952百万円となりました。

固定資産合計は、機械装置及び運搬具の減少（989百万円）等により、前連結会計年度末に比べて1,153百万円減少し、10,166百万円となりました。

負債合計は、買掛金の増加（1,240百万円）、短期借入金の減少（1,391百万円）等により、前連結会計年度末に比べて187百万円減少し、8,279百万円となりました。

この結果、自己資本比率は52.9%となり、前連結会計年度末に比べて1.1ポイント上昇しました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループの販売状況につきましては、LCD（液晶ディスプレイ）用フォトリソ材料の需要が当初の想定よりも順調に回復し好調な販売を続けることができました。

また、当社グループは、収益及び財務体質の改善と向上を図るため、人件費をはじめとした固定費の削減などコストダウンの徹底を強化するほか、業務全般にわたって合理化・効率化のための諸施策を総力をあげて推進してまいりました。

その結果、平成22年3月期通期の業績につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり修正することといたしました。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,998	1,222
売掛金	3,885	1,980
商品及び製品	2,937	4,180
仕掛品	346	372
原材料及び貯蔵品	481	657
その他	304	506
流動資産合計	9,952	8,919
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	6,853	7,843
その他(純額)	2,216	2,299
有形固定資産合計	9,069	10,142
無形固定資産	195	245
投資その他の資産		
その他	905	935
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	900	931
固定資産合計	10,166	11,319
資産合計	20,118	20,238
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,708	467
短期借入金	2,548	3,939
未払法人税等	101	180
役員賞与引当金	10	14
その他	967	842
流動負債合計	5,336	5,444
固定負債		
長期借入金	1,500	1,694
退職給付引当金	1,336	1,181
役員退職慰労引当金	60	100
その他	45	45
固定負債合計	2,942	3,022
負債合計	8,279	8,466

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500	1,500
資本剰余金	1,013	1,013
利益剰余金	8,072	7,947
自己株式	△10	△9
株主資本合計	10,575	10,451
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△27	△22
為替換算調整勘定	84	56
評価・換算差額等合計	57	34
少数株主持分	1,206	1,286
純資産合計	11,839	11,772
負債純資産合計	20,118	20,238

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	14,650	10,902
売上原価	11,607	9,447
売上総利益	3,043	1,455
販売費及び一般管理費	1,378	1,204
営業利益	1,664	250
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	3	2
受取補償金	113	416
その他	41	130
営業外収益合計	159	549
営業外費用		
支払利息	87	67
生産休止費用	36	103
その他	41	11
営業外費用合計	165	181
経常利益	1,658	618
税金等調整前四半期純利益	1,658	618
法人税等	687	242
少数株主利益	133	147
四半期純利益	837	228

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。